

(別添2)

No.	2
策定年月	令和3年7月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 下妻市 (作成主体:下妻市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

下妻市は、全耕地面積に対して主食米の作付割合が約7割を占める水田地域である。
近年、主食用米の国内需要が減少する中で、将来を見据え、加工用米等の生産拡大、園芸品目の導入等と併せて、麦・大豆の生産を拡大する必要がある。
麦・大豆の生産拡大にあたっては、担い手への集積が急速に進む状況を踏まえ、効率的作業を可能とする生産性の高い麦・大豆産地づくりを推進していく。
また、実需と密接に連携し需要が拡大基調である品種の生産を推進していくとともに、栽培技術の向上を進め、単収の安定を実現する。
現在、下妻市においては、令和2年度下妻市農業再生協議会水田フル活用ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、麦・大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

・麦については、本地域の9割で生産している品種さとのそらは、全量(約1600トン)がめん用として県内の製粉企業に販売されているが、実需からの要望を生産量が満たしておらず増産を図る必要がある。一方、ミカモゴールドンについては作付け過大になっており、より需要のある品種(カシマゴール)に切り替えていく必要がある。

・大豆については、生産の8割を占める品種ふくゆたかは、主に市内道の駅へ出荷し納豆や豆腐に加工されている。近年、作柄の不安定さにより安定供給が達成できておらず、より湿害への耐性が高く、県全体の方針と連携を図りつつ加工適性の高い品種へ切替える必要がある。

(2) 生産における現状と課題

・近年、作付面積は麦については減少、大豆については横ばいで推移している。単収は長期的に低下傾向となっている。

・単収低下の原因は主に3点ある。1点目は、夏季の天候不順である。収量を向上させるためには、土壌診断に基づいた地力の向上、施肥、病害虫防除の実施が課題となっている。

・2点目は、排水不良である。圃場に明渠・暗渠などの溝などを掘ることで、排水促進の効果が期待できる。

・3点目は、適期作業が徹底できないことである。近年は、担い手への農地の集約が急速に進み、1農家あたりの作業面積が拡大している。スマート農業の導入のほか、団地化の推進による作業の効率化が必要だが、団地化率は下がっており、課題となっている。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)	平成30年産	令和元年産	令和2年産(現状)
小麦	さとのそら	443	430	430	303	303	353	1,342	1,303	1,518
大麦	カシマゴール	3	3	2	284	284	249	9	9	5
	ミカモゴールデン	23	28	25	224	224	277	52	63	69
作物計		469	461	457	299	298	348	1,402	1,374	1,592

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)	平成29年産	平成30年産	令和元年産(現状)
大豆	(一括)	71	63	71	147	147	146	104	93	104
作物計		71	63	71	147	147	146	104	93	104

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

② 団地化

作物名	品種名	平成30年産		令和元年産		令和2年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦	さとのそら	227	51.2%	203	47.2%	205	47.7%	
大麦	カシマゴール	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
	ミカモゴールデン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
作物計		227	48.4%	203	44.0%	205	44.9%	

作物名	品種名	平成29年産		平成30年産		令和元年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	(一括)	66	93.0%	60	95.2%	66	93.0%	
作物計		66	93.0%	60	95.2%	66	93.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

茨城県の団地基準に基づき、4ha以上の、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地としている。

※ 都道府県の基準と異なる場合は、必ず記載すること。